

田植え時期の水不足に備えた水稻の技術対策

栃木県農政部経営技術課技術指導班

令和2年3月16日

この冬は、山間地の降雪量が平年に比べて極めて少なく、また、記録的な暖冬により、鬼怒川水系の奥日光、土呂部、那珂川水系の那須高原では積雪がない状況です。

気象庁が発表した3か月予報では、3～5月の降水量はほぼ平年並が見込まれていますが、例年GWに田植えを行う地域においては、昨年同様に河川の水不足により代かき作業の遅れが懸念されます。

今後の気象予報や県が発表する農業用水情報等を確認しながら、種子の浸種や代かき作業等を進めてください。

表1 各水系の各観測地点における累積降雪量^{※1}及び積雪深^{※2}

水系	観測地点	累積降雪量			積雪深	
		累積降雪量 (cm)	平年値 ^{※3} (cm)	平年比 ^{※4} (%)	積雪深 (cm)	平年値 ^{※3} (cm)
鬼怒川	奥日光	104	342	30	0	15
	土呂部	227	288	79	0	37
那珂川	那須高原	309	234	132	0	5

※1 令和元年11月1日から令和2年3月8日までの降雪量を合計したものであり、現在の積雪量ではない。

※2 現時点における積雪深 (3月8日現在)

※3 昭和56年から平成22年における30年平均降雪量及び積雪深

※4 累積降雪量の当年値と平年値を比較したもの。

1 種子の浸種

・水不足が予想される場合は、GW後の5月中旬の田植えも考慮して、種子の浸種等始める(表2参照)。

・予定どおり田植えができない場合を想定して、播種量は150g(乾燥籾)/箱以下とする。

・浸種の積算温度は、消毒済種子の場合120～130℃、未消毒種子の場合は100～120℃を目標に行う。

・未消毒種子は、種子消毒を行ってから浸種する。

・浸種の水温は10℃以上を保ち、2～3日程度で水を交換する。

表2 5月中旬田植えの場合作業時期の目安

移植予想旬	地域	4月			5月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
5月中旬移植	県北		浸種	播種	← 25日程度 →		
	県中		浸種	播種		田植	
		浸種: 4/11 播種期: 4/18			田植: 5/10～17		

2 育苗管理

(1) 温度管理

- ・過度の高温や低温にならないようにハウス内の換気に注意する。特に 30℃以上の高温にならないように注意する。

表3 ハウス内の温度管理基準

苗の緑化・硬化時期(育苗初期)の温度管理	昼間25℃～18℃(30℃以上にしない) 夜間10℃、最低5℃以上
育苗中期	昼間25℃～18℃(30℃以上にしない)
育苗後期	夜間5～7℃以上

(2) 水管理

- ・苗箱へのかん水は、朝、十分にかん水し、日中に表面の土が乾いた部分のみ（特に苗箱の回りが乾きやすいので注意）かん水するなど極力かん水量を控える。
なお、午後3時過ぎはかん水は行わないようにする。

3 本田の準備

- ・ロータリー耕耘を丁寧に行っておき、代かき作業がスムーズにできるように準備しておく。
- ・畦塗り機等で漏水防止を徹底し、モグラ穴等の点検もしっかり行う。

※ 台風 19 号により水路や堰等が被災した地域がありました。被災地域の復旧状況や通水時期等については、市町や土地改良区等から随時情報提供しています。田植えが遅れる場合の技術対策等についてはお近くの農業振興事務所にお問い合わせください。